CRL和英翻訳パートナー　トライアル受験要領

哲学 [https://www.crl.cloud/partners/doc/trial\_philosophy.docx](https://www.crl.cloud/partners/doc/trial_philisophy.docx)

作業仕様

1. トライアル回答は別ファイルに保存して提出してください。
2. トライアル回答には英語のみ記載してください（和英対訳形式ではありません）。
3. 使用フォントはTimes New Roman、サイズは12 pointでお願いします。
4. 訳出根拠の提示はコメントにて（本文への追記は厳禁）ソース情報を提示してください。

 ※トライアル回答・コメントに記載するテキストは、全て英語のみとします。

課題文（哲学）

　R・ブプナーは「現代美学の成立条件」と題する論文において、芸術を真理の場とする立場が現代における芸術哲学に共通する特徴であると指摘している。このような立場においては、芸術は「哲学が自分自身の理論的現状の確証を求めるための媒介」であり、芸術は哲学にとって一つの原型となる。そしてブプナーはこのような立場を代表する哲学として、解釈学と批判理論とを挙げている。しかしブプナー自身はこのような立場には反対する。その理由をブプナーは二点挙げている。第一に、美学全般を真理概念に関連づけ、それゆえ哲学に関連づけることは、哲学的概念性を芸術理論に押し付けることになるからである。これらの美学は芸術の理論を自律的に構築するのではなく、哲学の先行概念による異質な規定に初めから従っている。このことゆえにブプナーは、解釈学と批判理論に代表されるような芸術理論を「他律的」であると批判する。